

(2) 第2回事業推進会議

①開催日時・場所

日時 平成27年7月6日(月) 13:00～16:00
場所 日本教育新聞社 大会議室(東京都港区虎ノ門1-2-8)

②参加者 光永 伸一郎(上越教育大学 教授)
住田 実(大分大学 教授)
藤本 勇二(武庫川女子大学 専任講師)
阿部美保子(株式会社エディット書籍編集グループ部長)
津田容直(株式会社エディット書籍編集グループ)
笠井 俊秀(日本教育新聞社局次長)
吉岡 淳也(日本教育新聞社部次長)
菅原 美有希(日本教育新聞社)

③概要

今回の会議から参加する、成果物の製作・編集を担当する阿部氏・津田氏を紹介。各大学の事業の取材に訪問の際に協力をいただくことを依頼した。

次に、吉岡より、啓発用ポスター・チラシ(「3. 広報活動(2) ①、②」)が完成した旨の連絡と、各大学での配布・掲示を依頼。各自研究室をはじめ、学食・図書館・学生センター、農業体験場所などが想定される。日本教育新聞社でも、日本教育新聞の読者(大学関係)への送付や、自社主催の教員対象セミナーでの掲示を行い、教育関係者への啓発を進める。

次に各大学の事業進捗と、今後のスケジュールについて報告があった。

住田氏(大分大学)は、6月9日に「棚田の田植え」を実施した。参加した学生からは既に意欲的なレポートも提出されている。今後は年間を通じて農泊体験を含めた活動を行う予定。今年はレポートの提出に注力したいとの報告だった。

藤本氏(武庫川女子大学)は、自らのゼミ生を中心に農業体験活動を実施し、その体験を元に、小学校で食育授業に活用できる「食育プログラム集」の製作を目標としている。ゼミ生は教育実習があるため、実施の時期には配慮が必要と考えられる。農場での農業活動だけではなく、構内で「パケツ稲」の育成を行い、校内の学生に農業体験への認識を広げる予定である。

光永氏(上越教育大学)は、発酵食品を中心にした事業を検討しているため、現在は複数の発酵食品関連業者・食育関係者とのうちあわせを行っている。特に上越市の名産である「みそ」を事業の中心に据えたいと考えている。5月・6月は、自らの担当している授業で和食及び日本型食生活についての講義を行った。今後も授業に取り入れていく予定。

吉岡より、11月14日に上越市で開催される、教育関係者によるイベント「上越学び愛コラボ」にて、当事業の成果発表及びポスターセッションを行うため、各大学の学生を引率しての参加を依頼。

阿部氏より、3月製作の成果物について、台割の構成、必要な写真素材、製作スケジュールについて説明があった。

最後に、吉岡より、各大学の事業について、随時取材の上で日本教育新聞紙面及び特設サイト(<http://www.shokuiku-model.com/>)での掲載を予定している旨を伝達。各大学への取材協力を改めて依頼した。

(3) 第3回事業推進会議

①開催日時・場所

日時 平成27年11月13日(金) 16:00～18:00
場所 上越教育大学 音201教室(新潟県上越市山屋敷町1番地)

②参加者 光永 伸一郎(上越教育大学 教授)
上越教育大学院生 2名
住田 実(大分大学 教授)
武庫川女子大学学生 9名
阿部美保子(株式会社エディット書籍編集グループ部長)
津田容直(株式会社エディット書籍編集グループ)
吉岡 淳也(日本教育新聞社部次長)
菅原 美有希(日本教育新聞社)

③概要

各自自己紹介の後、当会議に初参加となる学生の意識共有のため、吉岡から、事業の全体説明及び成果物の製作主旨について説明を行った。

次に、各大学の事業進捗報告及び14日に開催される「上越学び愛コラボ」内のイベント「食育のススメ」での発表予定報告を行った。

住田氏(大分大学)は、現在大学で取り組んでいる宿泊を伴う農業体験活動による学生の意識の変化について話、学生が提出したレポートの抜粋を配布した。

光永氏(上越教育大学)は、大学で発酵食品を含む日本型食生活に講義で取り組むのは初めての試みとなる。小学校の家庭科の教科書には「ごはん」「みそ」が必ず記載されているが、「みそ」については知識が少ないことに危機感を抱いていた。そのような中、上越市の小学校では地域の学習として、発酵の権威である坂口謹一郎氏について学ぶなど、上越市は発酵食品や日本型食生活について学ぶさまざまな基盤がある、と話した。上越教育大学院生は、事業で行った発酵食品の料理教室に触れ、発酵食品は郷土食だけではなく、洋食など新しい料理にも活用できることを知らせることで、若い世代にも広まっていくという考えを話した。

武庫川女子大学学生は、「食育のススメ」での模擬授業及びポスターセッションでの発表内容を説明。今後は農業体験から学んだことを生かし、授業で活用できる「食育プログラム集」の製作を目標としていると話した。また、農業体験で野菜を育てたことで作物自体に愛着が湧いたことを、教師になった際に子どもたちに教えたい、と語った。

阿部氏より、成果物について、学生自身の感想を入れたいので学生へ対する取材に協力してほしいとの話があった。また、現時点での成果物の原稿とデザインを配布し、各大学ごとの校正及び資料・写真の提供を呼びかけた。

吉岡より、事後アンケートの時期の確認と、14日の「食育のススメ」の進行スケジュールについて説明を行った。